

第18回 会員紹介【S卒グループ①】



酒井 重嘉さん(昭和41年・経済学部卒)

経済学部 金子ゼミ S41 年卒です。

最初に就職した製薬会社で、札幌、大阪、広島、東京と転勤し、昭和54年から横浜に住み始めました。その後転職した外資系製薬会社では、営業の責任者として全国を、時には海外を飛び廻りました。今の若者には想像もつかない過酷な勤務でした。

そんな中、アメリカでの三か月の研修中に、広い国をぶっ飛ばすドライブ旅行の楽しさを覚え、定年後は毎年、家内と二人、喧嘩をしながらの珍道中で、米、英、カナダ等を走り回りました。しかし、数年前からは両方の親の介護や看取り等で中断してしまし、今は、その帰省の為等で年間1万キロ余を走るだけです。

楽しみは他にも多く、この同窓会のウォーキングやゴルフ他、麻雀、読書、テレビ鑑賞と忙しく過ごしています。家内には、「ボランティアも家の用事もしないで。」と言われながら。



1997年
アメリカ、ニュージャージーにて

2006年ペルー・マチュピチュ
ナスカからチチカカ湖への移動途中、
標高4335mの峠にて



⇒次回リレー 今井幸雄さん(昭和41年・理学部卒)



今井 幸雄さん(昭和41年・理学部卒)

私のこれまでを振り返ると関西学院に大きな影響を受けて過ごしてきました。

小学校6年生の時、母がどこからか探してきてくれた家庭教師のお蔭で、昭和31年に関西学院中学部に入学しました。毎朝1時間の電車通学、矢内正一部長の礼拝での説教や授業での薫陶、出来たばかりの千刈キャンプ場でのオリエンテーションで自然豊かな三田山中でのキャンプ生活、外国人教師による英会話の授業、などそれまでになかった新しい世界でのカルチャーショックの連続でした。

大学は創設されて2年目の理学部に推薦入学しました。一学年100名の少数精鋭教育の方針で科学を学び、後にシンクタンク(野村総合研究所)に入社後、理学部時代の“物事の本質を見極めて「問題の発見」と「問題の解決」を行う思考回路”が、システム分析や経営コンサルティングを行う際に大変役に立ちました。また、この理学部時代の友人8人が卒業後も毎年家族旅行を続けるなどの一生の仲間になっています。今年も東北旅行を計画しています。

会社生活では部長時代、一流会社60社ほどの中堅幹部を集めて行われるハーバード大学流の野村マネジメントスクールで3週間経営を学ぶ機会を得ました。その時に大勢の異業種の友人ができ、現在も年数回集まって旅行やゴルフを楽しんでいます。その仲間の一人に進められて太極拳も始めました。

そして、最後に関西学院東京支部や神奈川支部の同窓会活動で、「KG41年会」仲間の会合、「神奈川を楽しむ会」、「ゴルフコンペ」など多くの行事に参加し、仲間に恵まれて楽しく過ごせる事に感謝しています。

左の写真は昨年、卒業50周年のホームカミングデイに参加した時に、関学中学部の正面玄関で60年前の入学式と同じ場所で撮った同期との写真です(私は左から2人目)。右は今年3月の春場所前に行われた「宇良関新入幕昇進祝賀会」で宇良関を囲んでKG41年会幹事達との記念写真です。



⇒次回リレー 内海和男さん(昭和37年・経済学部卒)